

入間市長賞

「日本への投資」という考え方

向原中学校 三年 矢部 優奈

「バツシャーン」

雨の降る朝、道路が少しへこんでいるところに水が溜まり、車が通過するたびに歩道に水しぶきが飛んでいる。小学校の通学路だったため、六年間、雨の日は車が来ないタイミングを見計らってその歩道を通っていた。中学生になり、私はその道を通らなくなった。あの日、たまたま雨の学校帰り、その道を通った。しかし、水しぶきが飛んでくることはなかった。このことを父に話すと、

「誰かが市役所に電話して直してもらったんじゃない。」

と言っていた。道路の補修は、市の「道路管理課」などと呼ばれるところに報告をすれば税金を使って対応してくれることを知った。これまで税金とは、使われるものというよりは払うことが多いイメージだったが、今回のことを通して、がらりと変わった。

私は、他にどのようなことに税金が使われているのかウェブサイトで調べてみると、私たちの生活の当たり前を作っていることがわかった。たとえば、学校の校舎や、教科書、ごみ処理など日常生活を作っているもの。また、警察や消防、災害時の復旧など安全を守るためにも使われていることを知った。もし犯罪や災害に巻き込まれてしまったら、お金のことなど気にする余裕はないだろう。そんな時、税金が私たちを助け、守ってくれているのだと思う。何かも

のを買う時は消費税、会社で働いて給料をいただいた時は所得税、車を買ったら自動車税など、これから生きていく中で税金を納める場面が増えていくと思う。しかし、税金は私たちのためであり、必要なことに使われているので、一人の国民として納めることは当然だと思った。また、今回税金について調べ、考えてみて「納める」という表現より、「日本への投資」であり、日本を豊かにしていくための「材料費」という考えの方が適切ではないかと思った。税金には生活を豊かにし、笑顔を作ってくれるものから、悲しいことが起きてしまった時、お金を気にせず悲しませてくれるものまで、様々な力がある。そんな力に頼って私たちは毎日、生活している。使っている以上、税金を納めることは義務であると思う。これから先今以上に増えるであろう「日本への投資」を私たちの生活の豊かさより更なる日本の発展を願って続けていきたい。